

連日の猛暑、蒸し暑い日が続きます。体調管理をしっかりと、元気に夏を乗り切りましょう。現在会員登録数 1,173 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は 8 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 35

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 第 14 回国際グリム賞（国際児童文学研究賞）の受賞者が決定

世界において、児童文学研究にすぐれた業績をあげた方、または児童文学の研究・紹介等の振興に顕著な功績のあった方を顕彰する「国際グリム賞」の受賞者が決定しました。

受賞者：キンバリー・レイノルズ 博士（英国ニューカッスル大学教授）

贈呈式および記念講演会：平成 25 年 10 月 27 日（日）

大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町）＊詳細は後日発表

主催：大阪国際児童文学振興財団／財団法人 金蘭会／

大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html#14jushosha

● 「第30回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（木）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#30boshu

● 夏休み大特集 子どもの本に見る科学の不思議！展

子どもの本に見る「科学」をテーマにした展示、イベントを開催しています。大人の方には懐かしさを感じてもらい、子どもには科学への興味がわく内容です。「夏休み自由研究ブックリスト」もプレゼントします。

〈展 示〉

期 間：開催中～8月4日（日） ※ 水曜は休館

午前 10 時～午後 5 時（入館 4 時 30 分まで）

会 場：EXPO' 70 パビリオン 1 階ホワイエ（吹田市 万博記念公園内）

入場料： 無料 （別途、自然文化園の入園料が必要）

内 容： ・ 明治時代から現代までの科学の本

- ・ 大正 14 年から現在まで出版されている「子供の科学」（誠文堂新光社）、「学習」とセットで販売されていた「科学」（学習研究社）などの雑誌
- ・ 大阪万博にちなんで「ロボット」「宇宙」「のりもの」などのテーマの本や絵本 など

《イベント》 どちらも参加無料、会場は 同館 1 階多目的室

◇ 吹き矢をとばそう！ーぐんぐんのびる力の科学

日 時： 7 月 28 日（日）13 時～（満席）、14 時 30 分～（残席わずか）

講 師： 西村寿雄さん（科学読物研究会、仮説実験授業研究会）

対 象： 小学生 定員： 各回 30 人（事前申込み先着順）

◇ 「宇宙」短歌をみんなでつくろう！

日 時： 8 月 3 日（土） 14 時～14 時 45 分

講 師： 高田ほのかさん（リビングカルチャー倶楽部講師）

対 象： 小学生 定員： 30 人（事前申込み先着順）

主 催： 大阪国際児童文学振興財団

後 援： 大阪府立中央図書館／一般社団法人 関西環境開発センター

助 成： 独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

お申し込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html

● むかしの紙芝居・子どもの絵本を 楽しもう！

日 時： 平成25年 8 月11日（日） 午後 2 時～ 3 時30分

第 1 部 2 時～ 3 時 街頭紙芝居の実演、昔の絵本のおはなし会

第 2 部 3 時～ 3 時30分 ワークショップ 昔の絵本の復刻版や街頭紙芝居の複製版を使って声を出して読んでみましょう。

場 所： 大阪府立中央図書館 2 階大会議室

対 象： 子ども（6 歳以上）と大人 ※第 2 部は子ども優先とします

定 員： 60 名（当日先着順。事前申し込み不要）

参加費： 無 料 ※子どもにはささやかなプレゼントあり

主 催： 大阪国際児童文学振興財団

後 援： 大阪府立中央図書館／一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

助 成： 独立行政法人 国立青少年教育振興機構

お申し込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」 第 27 号 の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『わたしは倒れて血を流す』 イェニー・ヤーゲルフェルト/作 ヘレンハルメ
美穂/訳 岩波書店 2013年5月 対象年齢：高校生

あらすじ：スウェーデンの高校一年生マヤは、彫塑の時間に電気ノコギリで指を切った翌日、別居している母の元へ会いに行くが、母は不在。不安な思いを抱えつつも、隣家に住む20歳のジャスティンと知り合い、恋に落ちる。作品の後半で、母が精神科の病院に入院していたことがわかる。

Y：まず、タイトルがショッキングでした。

O：冒頭のシーンで、マヤが親指の先を誤って切ってしまう描写が、これでもかというほど克明に描写されていて、異常事態によっていきなり読者を放り込む「よくある作戦」みたいな感じがしてしまっただけですが、そうでもないようで…

Y：ヤングアダルト(YA)作品という意味では、セックスも描かれています。

O：そう、お酒、タバコ、音楽、映画、洋服、髪型、インターネット、父親のフェイスブックののぞき見、携帯電話など、YA作品の要素が繰り出されています。こうしたものを入れないとYAは成立しないのかな…。

Y：その中で、描かれていることは、母親との関係という古典的なテーマともいえるものです。ただ、最近、他にも同じテーマが出版されているように、母親が心の病にかかり、それを主人公が受け入れる過程が描かれている点が特徴的です。

O：心理学者の母親がアスペルガー症候群であるという診断にショックを受けるといふ展開はやや不自然にも思いましたが、主人公のみでなく、母親もまた、不安定な存在であり、アイデンティティの問題を抱えているという点では現代的といえるのですが。

Y：お母さんが教会で行われたマヤの終業式に出席し、自分の気持ちを書いた手紙を手渡す部分は心に残りました。

O：この作品は岩波書店の新しいYAシリーズSTAMP BOOKSの一冊ですね。10代の人に支持される作品とは何なのか、どう描かれるのか…考えるところですね。

Y：読み応えのあるラインナップで、これからも楽しみです。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 35

その6 絵本の読み方(10)『どろんこハリー』を読む：ハリー、ブラシを掘り出す

「ハリーじゃないよ」と告げられたハリーは、第11見開き左で重い足どりで頭を下げ、目をつぶって、門に向かって歩き始めます。「がっかり」「とぼと

ぼ」という言葉がハリーの落胆ぶりを伝えているため、大切に読む必要があります。そして、接続詞「でも」の前に少し間をとって、読者とハリーの落胆を共有します。ここまではハリーの歩く速さと呼応して比較的ゆっくり読みますが、「きゅうにたちどまる」という言葉どおり、「でも」以降は、第一文よりスピーディーに読みます。

第11見開き右の絵は、左の絵と対照的で、足は広がり、頭は上がり、蝶や虫や花までもが活発に見えます。ハリーの中にとってもいいアイデアがひらめいたことが、一目でわかります。絵自体は、穴が掘られてブラシが見えているため、第2文目の「あなから びよんと とびだしました」を表現しています。ハリーの体全体から前へ進もうとする意志が感じられ、読者も早く次のページを見たい気持ちにさせられます。

ぱっとページをめくった第12見開きでは、ハリーがブラシをくわえて、まさに家の中に入ろうとしている姿が描かれ、男の子、パパ、ママが驚き、女の子が満足そうに微笑んでいる姿が描かれています。ことばでは、「ブラシ」という言葉が2度文頭に来ることによって、ブラシこそがハリーの抱える問題を解決するキーワードだということがわかります。そして、「かけこむ」とあるので、スピード感を維持したまま、読み続けます。

第12見開き右ページでは、ハリーが「いちもくさん」に2階へ駆け上がり、家族が「すぐ」その後を追いかけてきます。第11見開きから第12見開きまでをハリーの動きと気持ちに沿って読むことによって、このお話の結末を盛り上げることができます。とは言っても、同じ調子であまりに速く読みすぎると、聞き手は何が起こっているかわかりません。キーワードに留意しながら、めくり方や速さを表現する言葉をイメージどおり読むことで、全体がスピーディーだということを伝えることができます。

* 次号は「その6 絵本の読み方 (11) 『どろんこハリー』を読む : ハリー、浴槽に入る」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース 篇 15 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

●国際日本文化研究センター 怪異・妖怪伝承データベース

<http://www.nichibun.ac.jp/youkaidb/index.html>

同 怪異・妖怪画像データベース

<http://www.nichibun.ac.jp/YoukaiGazouMenu/index.html>

河童、天狗、鬼、山姥…。神のおもざしが感じられる妖怪たち。私たちの身近な動物である、狐や狸、猫などもまた、不思議な能力をもつ化け物として畏れられ、その一方で親しまれてきました。こうした妖怪や怪異が、子どもの本の常連であることは言うまでもありません。

このデータベースは、これら〈物の怪〉や〈化け物〉について、あるいはそれらが引き起こした『怪異・妖怪』現象に関する情報を集めたもの(サイ

トより)です。「怪異・妖怪伝承データベース」には、「神隠し」「ヒノタマ」「タタリ」や、「鬼」「ムジナ」など 35,701 件の事例が登録。一方、「画像データベース」の方には、画像が 2,770 件掲載されています。

多く登場するのは、やはり狐や河童、天狗でしょう。例えば狐。画像データベースを見ると、獣そのものの姿もあれば、人間の姿態をしたもの、あるいは顔は狐で、身体は烏帽子に装束で人間と共に刀を打っているユニークなものもあります。また、河童は「頭のお皿、水かき、甲羅」がトレードマークかと思いきや、それが見られないものもあり、その容姿は実にさまざま。いずれもが畏れの対象でありながら、実にユーモラスかつ愛らしいキャラクターとしても描かれてきたことがわかります。

先人たちは、古来よりこうした伝承を語り伝えてきました。人々は、身近に起こる不可解な事象を神や妖怪の仕業と理解しようとしてきたのでしょう。目に見えない出来事に形を与えてきたさまざまな妖怪たち。こうした話を語り伝えることは、私たちの祖先が創り、信じてきた文化を継承することなのかもしれません。(J)

※次号は、一次資料データベース篇〈その 16〉の予定です。

《4》 行って来ました！

滋賀県立近代美術館で開催されている展覧会「佐々木マキ見本帖」に行ってきました。絵本作家、漫画家、イラストレーターとして活躍されている佐々木マキさんの約 45 年にわたる創作活動を振り返り、初期のマンガから最近の絵本の原画、写真やフィギュアなど、約 200 点の作品が展示されています。

古い時代のマンガや版画など、外国のような街並みや風景がとてもおしゃれです。マンガ『ピクルス街異聞』の原稿は全部展示されていて、コマのすみずみまで楽しめます。絵本『ムッシュ・ムニエルをごしょうかいします』の元のお話はこのマンガだったことがわかり、絵本の原画とマンガを見比べることもできておもしろかったです。

絵本の原画は色がきれいです。「ぶたのたね」シリーズのぶたが木に鈴なりになっている絵は、たわわに実っている感じに迫力があり、まるで目の前にあるように感じられます。『おばけのばむけ』や『くまの木をさがしに』のように、おばけや動物が子どもと行動している絵は、本当ならありえないということを感じさせず、その世界に引き込まれてしまいます。

ビデオではご本人のインタビュー映像が流されていて、佐々木マキという名前の由来や、『やっぱりおおかみ』で絵本を作るようになったきっかけなどが紹介されていました。絵本を読めるコーナーもあり、佐々木マキの世界を満喫することができました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● こどもの本WAVEのつどい（かがわ 2013）

日 時：平成 25 年 8 月 4 日（日）～ 5 日（月）
場 所：加古川総合文化センター（兵庫県加古川市）
内 容：4 日 10:30～12:30 講演会「世界を旅して作った絵本」
13:30～15:30 ワークショップ「お人形の絵を描こう」
以上どちらも 講師：市川里美（絵本作家）
5 日 10:30～12:00 講演会「写真で見る世界の絵本作家の素顔」
講師：穂積保（こどもの本 WAVE 代表）
13:30～15:30 講演会「こどもの本を翻訳すること」
講師：二宮由紀子（童話作家・翻訳家）
定 員：各回 50 人 参加費：無料 申込み：必要
問合せ：こどもの本 WAVE

● 資料展示 「絵本の国の赤ずきん～グリム童話出版 200 周年記念」
グリム童話は 1812 年クリスマスに初版が発表されました。代表作『赤ずきん』を国際児童文学館が所蔵する絵本で紹介いたします。
主催・会場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）
期 間：開催中 ～ 9 月 29 日（日）休館日あり
関連イベント：

（1）赤ずきんちゃんに変身！コーナー
赤いマントを着て、記念撮影をしよう！ ※カメラはご持参ください。
日 時：展示期間中の毎週土曜日 午後 3 時 30 分～ 4 時 30 分
場 所：大阪府立中央図書館 1 階エントランス（東大阪市荒本）
（2）小学生向けワークショップ「赤ずきんちゃんのパロディを作ろう！」
日 時：平成 25 年 8 月 14 日（水）午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分
場 所：大阪府立中央図書館 2 階大会議室
対 象：小学生
定 員：30 名（事前申込み先着順） 参加費：無料

● 2013 第 9 回 大阪こども「本の帯創作コンクール」
本を読んで、その本の面白さが他の方に伝わるような帯を作成してください。
優秀作品は実際の帯として製品化、本につけられ書店に並びます。
対 象：大阪府内の小学生、特別支援学校小学部および準ずる学校の児童
部 門：課題図書部門 低学年の部／中学年の部／高学年の部
自由図書部門 小学生全学年
応募締切日：平成 25 年 9 月 10 日 消印有効
主 催：大阪読書推進会／朝日新聞大阪本社

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団 HP に掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO! この本読んだ？」で紹介しました『わたしは倒れて血を流す』を 1 名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO. 35 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所

(3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想
をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。
締切は8月10日(土)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — |

夏に恐いのが熱中症。ひと夏で何万人もの方が救急搬送されるそうです。

あのころの夢情熱よ今いずこ せめてなるかや熱中症
などと冗談は不謹慎ですが、若さもあり一途に夢中になれた自分が懐かしい、
そんな私が、今、注意すべきは“熱中症”だなんて… (A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
